

国家の輪郭と越境

The Contours of State and Border-Crossings

— 『Mother India』を読む Part II —

第2回研究会のお知らせ

参加自由

下記の通り、第2回「国家の輪郭と越境」研究会を開催いたします。

参加自由ですので、ぜひご参加ください。

- 日時 平成 21 年 5 月 12 日（火） 15 時～17 時
- 場所 大阪大学箕面キャンパス
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html>
総合研究棟 6 階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム
- 研究会題目 『Mother India』を読む Part II
- 趣旨 本研究会は、「地域大国」としてのインド、中国、ロシアがこれまでいかに描かれてきたのかを、多様な資料を精読して、広く検証することを目的とする。
第一回目に引き続き取り上げる『Mother India』は、アメリカ人著者 Katherine Mayo が英領インド視察後に作成したものである。作中でメイヨーはインドの後進性を強調し、自治には不適當であると結論づけた。
同書が 1927 年に出版されると、インド国内外で大きな論争が起こったが、「母なるインド」のイメージは現在も用いられており、「インド像」を検証する上で基本文献となっている。
本研究会ではこれを精読し、メイヨーが描いたインドを再検証する。講読後は論争の分析考察に入り、インドのイメージの成立過程と変容を考えたい。
- 使用テキスト Katherine Mayo 著 『Mother India』 1927 年
Blue Ribbon, New York (Part II pp. 65-141)
(テキストは配布します)
- 問い合わせ先 科学研究費補助金 新学術領域研究
「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局
dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp